

きんもくせい

編集目標 人間尊重の教育を求めて

令和5年 学校教育だより

December **12** 第359号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711(内線622)



合唱コンクール 3学年合唱「群青」

写真提供／本郷中学校

山

南畑小学校 二年

齊藤 あかり

秋になると

山はオレンジ色

冬になると

山は白くそまり

山はいろいろな色になり

いろんなきせつに

色かわる

現代の学びに求められていること

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指す』において、急激に変化する時代の中では、よくもむべき資質能力として、自己と他者を尊重し、協働しながら社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることが示された。子どもの学びの姿として、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現が求められている。そのために、子ども一人一人の興味・関心の方向性に応じた学習活動や課題に取り組む機会の充実が必要となる。また、他者との関わりの中で考え方を広げ、社会的事象に対する価値を高めていくことが必要である。こうした、子どもが自己調整を図りながら、協働的な学びを通して、学習を深めていくような問題解決的な学習をめざしている。本校では、令和四・五年度「学びをデザインする」授業の工夫改善を研究主題に取り組んでおり、五年生の授業実践の中から、「問いの設定」「個別最適な学び」「協働的な学び」について、活動の様子を紹介する。

考える学習過程

指導者 針ヶ谷小学校 教諭 金子 純一

自分事にせまる問いの設定

五年「情報産業とわたしたちのくらし」の単元では、導入でニュース映像を見た後に、「これから針小ニュースを作ろう。」と児童と課題設定をした。児童は、ニュース番組を作るために何が必要か予想し、調べる計画を立て、番組づくりに取り組んだ。実際に取材をし、役割分担を決めながら撮影し、映像編集を行った。教師は、情報の受け手である視聴者の視点があることを補足し、児童の思考が深まるよう支援を行った。児童が作ったニュース番組は、学校のネットワーク上に配信し、児童同士で見合

子どもの夏

鶴瀬小学校 6年 佐藤 美和

「1年生とのお祭り」

1学期の終わりに、6年生と1年生で夏祭りを開きました。チョコバナナ・射的・ビー玉すくいなど7つのお店を出しました。

準備は6年生がバナナ、じゅう、すくうポイなどの難しい物を準備しました。その後、1年生と一緒に仕上げました。1年生と準備するのは楽しかったけど自分たちの思いを伝えるのが難しかったです。

お祭り当日は、1年生が喜んでくれてよかったです。今回のお祭りを通して、1年生との仲がより深まりました。またこのような機会があれば、もっと1年生と話をしながら進めたいと思いました。



個別最適な学び

「個々の学びアンケート」どの学習方法が自分に合っていると思いますか?」を実施し、アンケート結果をもとに、教師が児童の学びを見届け、評価を行った。学習が進む中で、タブレットは学習意欲が高まるが、情報量が多いので、教科書のわかりやすく整理された資料を使うと学習方法を選択する姿が見られた。また、タブレットで入力するより書いた方が記憶に残るので、まとめ方をノートに変更した児童もいた。これらの児童の姿から、個別最適な学び方



わかる授業 二 小学校 社会 二

主体的に追求し、よりよい社会を

を児童自身が見出していく大切さを感じることができた。主体的に学び方を選択していくことは大事であるが、一人一人に合った個別最適化が図られているかどうか見届ける必要があり、教師には適切な支援が求められる。

「どの学習方法が自分に合っていると思いますか？」(29人)

主な活用資料	教科書・資料集 15人	インターネットの情報 13人	その他 1人
課題解決	個人で進める 14人	友達と進める 14人	その他 1人
まとめ方	ノートに書く 12人	タブレット入力 17人	その他 0人

特別支援教育

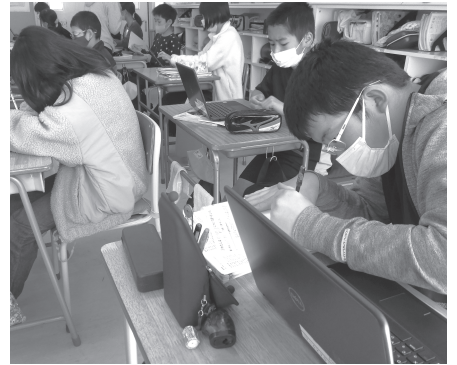
親子に寄り添う教室をめざして

通級指導教室「YELL」担当 小峰 夏子

令和五年度から関沢小学校に発達障がい・情緒障がい通級指導教室「YELL」が開設されました。市内では三つ目の教室になります。学校区は、関沢小・つるせ台小・針ヶ谷小・水谷東小です。「YELL」では、ノートに黒板の文字を写すことが苦手、何度練習しても漢字が定着しない、集中して取り組むことが難しい、友達とうまく関わるこ

とが難しい、気持ちのコントロールがうまくいかない等の困り感を持っている児童が通っています。まずは、親子に寄り添い話を聞いて、どうしたら、もっと楽しく学校生活を送れるかを考え、取り組んでいます。苦手なことへの対策だけでなく、得意なことを見つけて、さらに活かす、教室でも本人のよさが発揮できるように、一緒に考えること

協働的な学び



個別最適化された学びを追究すると、協働的な学びが重視される懸念があるが、協働的な学びなくして、深い学びは実現を心がけ、トレーニングしていきます。保護者にとっては、気兼ねなく困ったことや悩みを相談できる場であり、子どもたちにとっては、気持ちを伝えることで、頭の整理ができ、自分のペースで物事を考えられる教室「寄り添う教室」であることをこれからも目指していきます。通級指導教室での学びが終わり、それぞれの教室に向かう子どもたちにも「行ってらっしゃい。」と声をかけると「行ってきます。」と笑顔で扉を開ける子どもたちの姿をこれからも支えていきます。

不可能であると考えられる。しかし、一斉授業の中でのクラスの学習問題を三十人が足並みを揃えて主体的な学びを継続していくのは、難しいと考える。そこで、「つかむ」学習問題の設定から「調べる」「まとめる」学習問題の結論までを全て、五人ほどの小グループで完結するような学習形態を取り入れた。そうすることで、単元を通して学び合いが活発になり、児童それぞれに多面的な知識の獲得が図れた。

おわりに

「令和の日本型学校教育」を受けて、「個別最適化された学び」と「協働的な学び」を一体化し、主体的に課題追究していくことは重要であると再認識した。今後も、自己と他者を尊重し、協働しながら学びを調整できるように指導を続けていきたい。

二〇三〇年頃の社会や、その先の社会において、目の前の子どもが大人になった時に、持続可能な社会の創り手となるべく、日々の授業改善を怠ることなく、主体的に追求できる授業づくりをめざしていきたい。

指導・講評

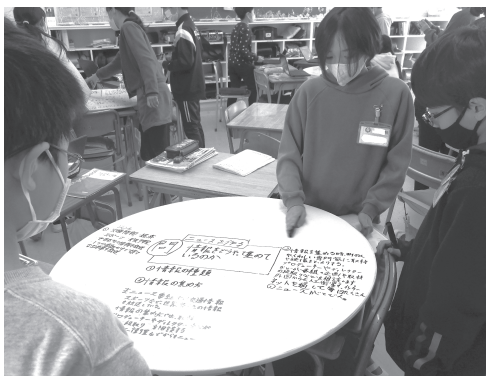
針ヶ谷小学校長 本木 千穂

針ヶ谷小の子どもたちが、未来を切り拓いていくために、今どんな力を身に付ければよいか、ここから本校の研究がはじまりました。

子どもたちが自分事にせまる問いを設定することは、子どもたちの主体的な学びを促します。

一人一人に合った学び方を自分自身で選択できること、協働しながら課題を解決していくことは、学習を深めていきます。

今回の五年生の授業実践からも、子どもたちが主体的に学びに向かう姿がみえてくると思います。本校では今後も「学びをデザインする」授業の工夫改善に向け、取り組んでまいります。



PTAの取り組み

諏訪小学校 保護者 鈴木 広高

諏訪小学校は昨年度から、PTA活動に係制度を導入しています。今までは児童一人につき、一年間の委員会活動をしなければいけないといったものを年に一回の係活動に参加すればよいものとなりました。市内他の小学校を見ると委員会を残している学校、PTA本部を縮小しボランティア制にしている学校など様々かと思えます。今は共働き世帯や核家族が多くいる中で各々の学校が今までのPTAのあり方から変化しているように思います。係制度にしたことで、保護者の負担は軽減することができた一方で、係の取りまとめや監督を行う本部役員の活動量が増えてしまっている現状があります。一保護者としては、自分の子どもを含め同じ小学校に通う子どもたちや先生方のために、無理のない範囲でPTAは継続していくことが必要と考えています。現在は、係のマニュアル化や保護者や学



校との連絡をアプリで行い、クラウドを活用することで本部役員が在宅でできることを増やし、負担を軽減できるように効率化を図っています。その中で、十一月には四年ぶりに「けやき祭り」を開催しました。ボランティアやポスター作成募集等もアプリで行い、当日は子どもたちの笑顔をたくさん見ることができました。時代に合わせ、子どもたちのためにという基準で、無くすべきものと残すべきものを見極めていけたらと思います。



本気で遊ぶ

ふじみ野小学校

本校では、「児童が本気で遊べるSTEM教育」を目指して教育活動に取り組んでいます。「遊び」と聞くと、学習とは関係ないと思われるかもしれませんが、「遊び」とは、答えを一つに決めることなく、物事を関連付けて考えることと定義しました。五年生では、モーターカーにプログラミングをして得点を競う授業を行いました。高

得点をとるためのアプローチは様々です。より効率よく、高得点をとるために試行錯誤することが大切です。また、四年生で学習した理科の知識やモーターカーを組み立てる力も必要です。「STEM教育」という名前がついていますが、特別な授業をするということではなく、工夫することで、児童が「や



つてみたい」と感じ、遊んでいるような感覚で授業に取り組めるように努力していきます。

はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

子どもの成長とともに

本郷中学校 保護者 葉原 聖子

親になってから十年以上経ちました。二人の子どももすっかり大きくなり、その姿に驚かされる毎日です。

私には年の離れた弟がおり、赤ちゃんのお世話は大変だなと実感していました。慣れたつもりでいましたが、我が子は全く予想外のことがばかり起きて驚きと戸惑うことが多かったです。小さい頃は二人とも活発で、手を離せば別々の方向に走り出す子たちでした。

毎日へとへとになり、よく一緒にぐっすり眠っていました。体力がとんでも必要なのだと思いつきました。とにかく大変だったという思いはありますが、詳しい記憶はありません。都合のいいもので、楽しかった思い出、かわいかった様子は細かく覚えていきます。子どもは三才までの間に親孝行を終えているという言葉に納得しました。得難い経験をさせてもらい自分も少しは成長し

子どもたちは心も身もぐつと成長する次のステージに進みましたが、体力はもちろんですが、気力が必要になってきました。

子どもたちの心の成長とともに私も成長しなければならぬのですが、なかなか変化に追いつけていません。今でも予想外の事が多く、よくも悪くも驚かされることばかりの日々です。ついつい口うるさくなってしまい。反省しての繰り返しですが、その間にも子どもは逞しく成長し続けます。

その速さに全く追いつけそうにありませんが、助けが必要なのは支える力になれるよう寄り添ってまいります。



地域とつながるボランティア活動

勝瀬中学校

本校では、ボランティア活動に力を入れて取り組んでいきます。生徒が地域の活動に参加することで、自分たちが住んでいる地域に関心を向け、今まで育ってきた郷土に貢献し、結びつきを深めること、さらに、未来を創る子どもたちが多様な大人の姿を見て学んでもらうことを目的としています。

写真とは山室地区にある水路で行われた絶滅危惧種に指定

されているホトケドジョウの環境保全活動ボランティアの様子です。参加した生徒は専門の方の説明や助言を受けながら、体験を通して身近にある水路の生態について学んでいました。この活動により、改めて湧水の多い富士見市の様々な生き物に触れ、ホトケドジョウを取りまく生態系の保全の必要性について学ぶことができ



ました。

今後もボランティア活動を通して地域に貢献することで、自分たちの郷土を愛し、地域を引き継ぐ子どもを家庭・地域とともに育てていきたいと考えています。

教育課題特集

生きる力を

子どもたちは地域の大切な宝物！

鶴瀬西交流センター所長 鳥海 謙一

鶴瀬西交流センターでは、地域交流をより深めるために夏シーズン恒例の緑日、秋シーズンにはフェスティバルをはじめ、様々なイベントを毎年開催しております。開催目的の一つには多世代間の交流があります。そこには、つるせ台小学校の児童が友達同士、家族とともに参加され、会場では多くのコミュニケーションや出会いが生まれています。

集まった地域の方々や保護者から「子どもの姿が見られ元気づけられた」「イベントが楽しかった」との声をいただき、子どもたちも満足気で帰られる姿を拝見すると非常に嬉しく感じています。地域社会では、子どもが社会性を身につける重要な場、地域一体となって子どもたちを支えていかなければならないと思います。

子どもたちとの出会い、交流が私自身をいつも元気にしてくれています。

地域社会がもつ機能の一つに、子どもが生まれ育つ場としての機能があると言われており、近年少子化や生活スタイルの多様化などの影響で、



人間尊重教育推進

わたしたちのまちに 育てよう 広げよう 人間尊重の心

一 富士見市は人間尊重宣言都市です

私たちのまち富士見市は、昭和四十一年に人間尊重都市宣言をしました。

「からだと心の健康を高めよう」

「自分を大切にするとともに、他人を尊重しよう」

「個性をよりよく生かし社会のために役立てよう」と

呼びかけながら私たちのまちを人間尊重のまちにすることを宣言したのです。

二 学校における人間尊重

市内の小・中・特別支援学校では、一人ひとりの子どもたちに確かな学力を身につけさせるとともに、人間らしくよりよく生きる心をはぐくむための教育が実践されています。

また、すべての教職員により一人ひとりの子どもたちが大切にされ、互いに尊重し合い、信頼関係で結ばれた学校づくりが進められています。

三 家庭教育における人間尊重

子どもにとつて家庭は、安らぎの場所であり、人間としての生き方を学ぶかけがえのない場です。また、親子のコミュニケーションは、食事が体をつくるのと同じように、子どもの豊かな心をはぐくむこととなります。家庭での温かい言葉かけは、子どもの心を育てる栄養となります。

毎日の家庭生活の中で、やさしさや思いやりなどの豊かな心が育つことを願って「家庭における人間尊重教育十か条」が作成されており、活用ください。

家庭・学校・行政が力を合わせ、一体となって子どもたちの健全な育成に努力していきましょう。

家庭における人間尊重教育十か条

一人のいのちを大切に

いのちある動物、植物をいたわりましょう

二 健康を大切にし 正しい食事と適度な運動でからだづくりにつとめましょう

三 おはよう、おやすみ、ただいま、おかえりのことが聞こえる温かい家庭をつくりましょう

四 ありがとう、ごきげんようさまの素直なことがばで感謝の心を育てましょう

五 家族の仕事を分担し 家族の一員としての役割をはたしましょう

六 人の喜びを喜びとし 人の心の痛みを分かちあい助けあつていきましょう

七 やさしさ いたわりの心を大切にし おとしよりの方々に学びましょう

八 どんな物も人の汗と力でできることを知り物を大切にすることを育てましょう

九 正しくやさしいことはでつづまれた明るい家庭をつくりましょう

十 正しいことをつらぬく強い心で 勇気ある行動をとりましょう

人間尊重 わたしたちの合言葉

【小学生の部】

いいんだよ

人には人の

ちがう色

(水谷東小学校 五年 樺澤 義人)

このことば

それぞれちがう

かんじかた

(勝瀬小学校 五年 中山 美咲)

【中学生の部】

「素敵だね」

友達認める

その想い

(勝瀬中学校 一年 吉泉 桜子)

笑い声

あふれる世界

目指そうよ

(水谷中学校 二年 篠川 漣)

入間郡市同和对策協議会
入間地区人権教育推進協議会

応募作品より

人間尊重・私の主張

人権問題について

小さな差別

諏訪小学校 六年 福田 綾人

皆さんは、男性はこうで女性はこうというイメージをもっていますか。

ぼくの妹は、自分のことを「ボク」と言います。ぼくは、妹が自分のことを「ボク」ということを変だと思ったことは一度もありません。ところが、ある日妹は学校で友達に、

「女の子なのにボクって言うのはヘンだよ。」

「女の子だから、私と言わないとおかしいよ。」などと言われたようです。男の子は自分のことを「ボク」と言い、女の子は「私」と言うという思い込みで、妹がきずつてしまったのです。

ぼくがこの話を妹から聞いた時、女の子だから「ボク」と言っではいけないなんておかしいと思いました。ぼくは、なぜ妹はそう言われてしまったのか、ぼくなり考えてみました。おそらく、「ボク」という呼び方は男の子のものという考えが多くあるからではないかと考えました。しかし、考えが多いからといって女の子が「ボク」を自分の呼び名として使っではいけないのかというとそれは違うと思います。それは男も同じです。男の人が自分のことを「わたし」と言っても全くおかしいなんて思いません。それは色の好みや性格、見た目も

同じです。実際に、多くの人は、「青や黒が好きなのは男性、女性は赤やピンクが好き」というイメージをもっていると思います。しかし、ぼくは男性ですが、赤やピンクが好きです。逆に妹は女性ですが、青や黒といったかっこいい色が好きです。ぼくはお菓子作りや手芸が好きですが、運動はあまり好きではありません。妹は運動が好きで、スカートは好みません。しかし、一般的にお菓子作りや手芸は女の子が好きなもの、運動は男の子が好きなもの、と思われがちです。よく考えてみると、小さな差別は身の周りにたくさんあることに気がつきました。人が気がつきにくい小さな差別が積み重なることで、いじめに発展し、大きな問題になってしまうのではないのでしょうか。

ぼくは、「女の子だから」や「男の子だから」などの小さな差別を無くせば、様々な悩みをもった人がもう少し楽に暮らせるのではないかと 생각합니다。日常で当たり前になっている小さな差別をすぐに無くすことは難しいかもしれませんが、少しでも減らしていくことが大切だと思います。

これから生きていく中で、ぼくは多くの人に会おうと思います。その時には、その人たちを性別で判断する、決めるなどせず、その人たちの個性を大切にしたいです。

《小学校宣言》

私たちは、全校児童が仲良く楽しく過ごせる学校をつくるために、相手の気持ちを考えた行動を心がけ、いじめのない学校を目指し、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「遊び半分で相手を傷つけるようなことをしてはいけません。」と注意します。
 - 私たちは、いじめられている人に「いつでも相談してね。一人でかかえこまないで。」と声をかけてあげます。
 - 私たちは、いじめを見ている人に「見ているのもいじめだよ。いっしょに助けてあげよう。」と言います。
 - 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「子どもの変化に気づいて助けてください。」とお願いします。
- 私たちは、友だちのいいところを認め合い、いじめがなくなるまで、「いじめはだめだ。」とずっと続けたいです。

《中学校宣言》

私たちは、一人ひとりの個性を認め合える、いじめのない太陽のような学校をつくるために、以下のことを宣言します。

- 私たちは、いじめをしている人に「相手の気持ちになって、自分の言動を見つめよう。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、いじめられている人に「一人じゃないから勇気を出して相談してね。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、いじめを見ている人に「私たちの一言で救われる人がいるからみんなで助け合おうよう。」と声をかけていきます。
 - 私たちは、お父さん、お母さん、先生たちに「一人ひとりちゃんと理解して、よくなかったら注意をしてください。」とお願いします。
- 私たちは、仲間を大切にして、いじめを撲滅する努力をします。

富士見市 いじめのない学校へ子どもも宣言

教育委員会だより

令和3年4月以降に高校・大学等に修学されたお子様の保護者の方へ (教育資金利子補給制度のご案内)

高校・大学等に修学するため、入学資金や在学資金など教育に要する資金を必要とされる方が、日本政策金融公庫の教育ローン(教育一般貸付)を受けた場合に、市がその返済利子の一部を助成します。

1 交付対象

次の全てに該当する方

- ①高校、大学等へ修学する方またはその保護者であること
 - ②富士見市に住民登録があり、現に居住していること
 - ③市税を滞納していないこと
 - ④日本政策金融公庫から、教育資金の融資を受けていること
- ※利子補給制度の対象となる融資は、修学する学校ごとに1回のみです。

2 利子補給期間

在籍する高校、大学等の正規の修学期間とします。

3 利子補給金額

借入れに係る利子の年額(上限1万7千円)を助成します。
※利子の年額は、年度単位で計算します。

4 申請方法等

申請方法・申請時期等の詳細は、富士見市のホームページをご確認ください。



【利子補給に関する問合せ先】

富士見市教育委員会 教育政策課(富士見市立中央図書館2階)
電話 049-251-2711(内線611)

【教育一般貸付に関する申込み・問合せ先】

日本政策金融公庫
教育ローンコールセンター：0570-008656(ナビダイヤル)
：03-5321-8656

<近隣の店舗>

日本政策金融公庫 川越支店
住所 川越市脇田本町14-1 日本生命川越ビル5階
電話 0570-017448(ナビダイヤル)

《お詫びと訂正》

9月号(358号)に以下2点の誤りがございました。ここに訂正し、お詫びします。
・6ページ「学校Today」の表記：(正)水谷東小 (誤)水東谷小
・8ページ「令和5年度学校総合体育大会 関東大会・全国大会 結果」
西中学校 吉原 優花さんの学年：(正)2年 (誤)1年



教師の醍醐味

水谷中学校 教諭 大久保 勝



「はい。大丈夫です。親に食べさせてもらいます。」と。そう話す生徒に何と言えばよいか考えます。「きちんと自分の人生を考えなさい。」と正論で指導する

習用具やプリント類であふれています。また給食後、「おぼん」「食器」「ご飯の容器」をまとめて一人で配膳室に戻す姿を見かけました。男子とはいえ、かなりの重さに

教師として長く学校生活を過ごしていると、クラスにはいろいろな子がいます。昔いたある生徒との会話です。「中学校を卒業したらゲーマーになります。」「収入を得られるようになるまで、大

べきか。その生徒は違う場面ではこんな行動が見られました。彼は階段掃除担当ですが、実に丁寧に床の黒ずみを落とそうと格闘しています。しかし教室のロッカーや机の周りは学

なるはずですが。当番ではあるのですが欠席した仲間の分も合わせて一人で返却してくれています。そんな時、彼に何と言えよいか考えます。「ありがとう。私は何となく正論で指導する

のも安易に誉めるのも違う気がします。では何を伝えるべきか。日頃から「物事を多角的に見られるようになる。」と生徒に指導しています。ですから、彼を多角的に見ると彼の人間性が見えてきます。その全てが彼なのです。学習や運動ができる子は目立ちますが、それが全てではありません。じっくり一人一人の生徒を見ていくと、時にその子の将来が見えてきます。教師としての醍醐味かもしれません。

編集日記

読書の秋に思う：

小学校低学年の頃、優しくかつ担任の先生がお休みの時に、強面の男の先生が自習の監督に私のクラスにやってきた。みんな静かに、背筋ピン。その先生は読書をするよう指示をした。そして、先生は「この時間は先生が配った本を読みましょう。」と、一人一人に本を配った。様々な本の中で私には『はなれざるドド』という本が配られた。自分からは絶対に読もうとしな

い本。最初は仕方なく読み始めた自分だが、読んでいくにつれ群れを離れて冒険するドドに心を奪われた。今でも忘れない、時には、自分にとって新たなジャンルの本を読むことも自分にとってよいきっかけとなる。先日、先輩の校長先生から本をいただいた。「じゃんこ四字熟語辞典」である。四字熟語の意味に合わせた猫の写真が満載で、ほっこりしながらちよっとだけ賢くなれるこの一冊。先輩校長先生は私の大好きな猫と国語が苦手であることを知ってか、まさに今の私にぴったりこの一冊をくださったのだと思う。さすが先輩「破顔一笑」(顔をほころばせてにっこり笑うこと。)

(齊藤七実)